

# 大学の運動部での指導者と部員の望ましい指導関係のあり方のアンケート調査\*

1220440 門田泰征

指導教員 草川孝夫

## 研究背景

組織のリーダーは、組織のパフォーマンスを高めるために、どのようなリーダーシップ行動を取るべきなのだろうか。この問いに関し、これまで一般企業の勤務者を対象としたアンケート調査は行われてきている。しかしながら、組織のパフォーマンスを上げるだけでなく、メンバーへの教育も重要な目標となる大学の運動部において、どのようなリーダーシップの形態が望ましいのかについては、これまで十分に検討されてこなかった。

## 研究目的

本研究の目的は、大学の運動部において、指導者によるどのようなリーダーシップと、部員によるどのようなフォロワーシップの組合せが、選手のモチベーションや心理的安寧の点で望ましいかを明らかにすることである。

## 研究方法

リーダーシップとフォロワーシップの望ましい組合せを、企業において検討した先行研究と同様の手法を用いる。すなわち、研究対象を大学の運動部に変え、大学の運動部に特有な質問事項も設けた上で、選手に回答してもらう。

## 分析結果

指導者が選手の自主性を重んじ、かつ、選手が自ら積極的に行動する形態では、逆に選手のモチベーションを下げってしまう効果があることが分かった。また、指導者が選手の自主性を重んじ、かつ、選手が指導者の命令に従う形態では、選手に心理的安寧がもたらされることが分かった。

## 結論

選手が、積極的に行動するタイプなのか、あるいは、指導者の命令に従うタイプなのかによって、望ましい指導者のあり方が変わってくることが明らかになった。

---

\* 本研究を進めるにあたり、ご指導をいただき指導教員である草川孝夫先生やアンケートに回答して下さった方々に心より感謝申し上げます。